

その他実験の概要

平成18年度・琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターにおいて実施中および継続している実験の概要

平成18年12月現在

実験名	実験区分	実施年度	実験施設 調査場所	実験内容
1 実験環境下におけるポーラスコンクリートによるヨシ植栽実験	共同実験 立命館大学	H14～H18	湖岸フィールド実験施設	実験環境下におけるヨシ植栽工法として、ポーラスコンクリートを担体として植栽されたヨシの生育調査を行い、その有効性を検討する。
2 生分解性吸着剤による窒素・リン除去実験	共同実験 京都工芸繊維大	H14～H18	水路型浄化実験施設	生分解性のポリエステルの交換型吸着剤を用いて、窒素・リンの除去実験を行う。
3 自然循環方式浄化実験	共同実験 東洋電化工業	H13～継	自然循環方式浄化実験施設	各槽に塩ビ製接触ろ材、脱窒材料、また木炭や鉱物等の自然素材を加工したろ材を充填し、ろ材に付着した微生物の働きによる水質浄化効果を調査する。

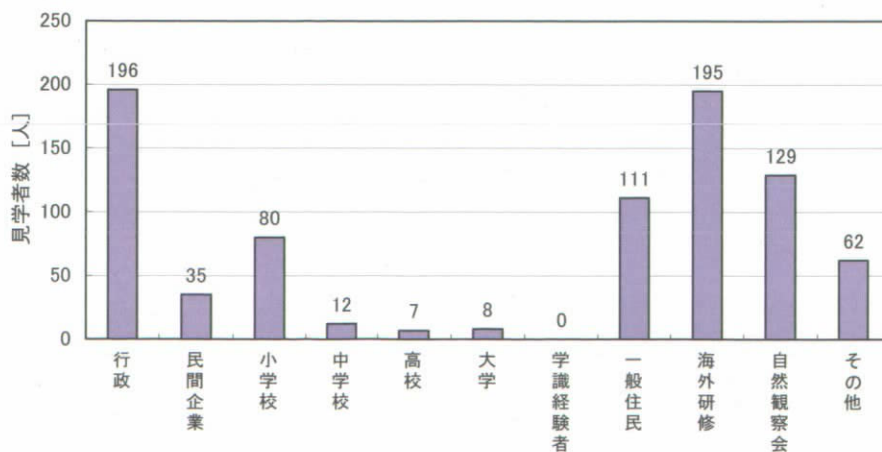
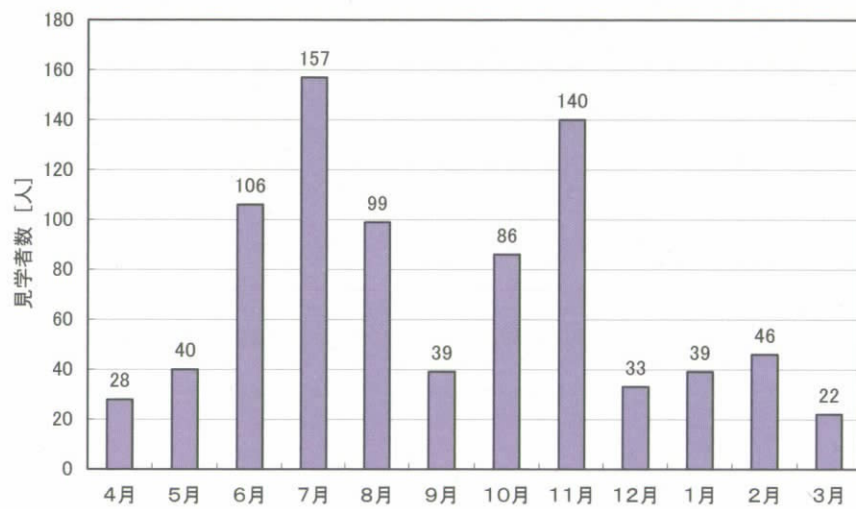
啓 発 活 動

平成 17 年度 Biyo センター見学者実績

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(以降 Biyo センター)では、流域内の住民や関係機関への水質浄化事業の広報および水質浄化に係わる教材として、水質浄化の原理や生態系の創出工程を学べる場としての役割が期待されていることから、各依頼に応じて見学を行っている。

平成 17 年度 Biyo センター見学に関するデータを図 1 に示す。

平成 17 年度の総見学者数は 835 人であり、最も多かったのは行政であった。



平成 17 年度自然観察会

1. 目的

魚類や植物等水辺の生き物の観察を通して、参加者の水辺環境に対する興味・関心を高める。また、琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（以下、Biyoセンターとする）の水質浄化施設としての特色や、ビオトープとしての役割を生かすことで、Biyoセンターの活動PRを行うことを目的とする。

2. 実施内容

(1) 主催

国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、独立行政法人水資源機構関西支社、財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構

(2) 日時

■第1回：平成17年7月23日（土） 9：30～12：00

■第2回：平成17年8月20日（土） 9：30～12：00

(3) プログラム

時間	第1回(魚の観察) 講師：中井先生(琵琶湖博物館)	第2回(昆虫の観察) 講師：南先生(八幡高校)
9：00～9：30	受付（出席確認、資料配付）	受付（出席確認、資料配付）
9：30～9：40	開会（挨拶）	開会（挨拶）
9：40～10：00	Biyoセンターの魚類と水路について説明（琵琶湖博物館 中井先生） 魚の採集方法について学習	Biyoセンターの昆虫類について説明（八幡高校 南先生） 昆虫の採集方法について学習
10：00～11：20	魚の採集	昆虫の採集
11：20～11：40	観察	観察
11：40～11：50	講評（琵琶湖博物館 中井先生）	講評（八幡高校 南先生）
11：50～12：00	閉会・アンケート記入	閉会・アンケート記入

3. 参加状況

■ 1、2回の参加者数は、延べ112名（内小学生以下54名）であった。

	福井	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	合計	小学生以下
第1回 (参加実数)	9	0	50	3	5	0	0	0	67	(31)
第2回 (参加実数)	0	0	28	1	0	9	5	2	45	(23)

単位：人

4. 実施結果

4.1 魚の観察

(1) 実施地点

実施地点は図4-1に示すとおりである。

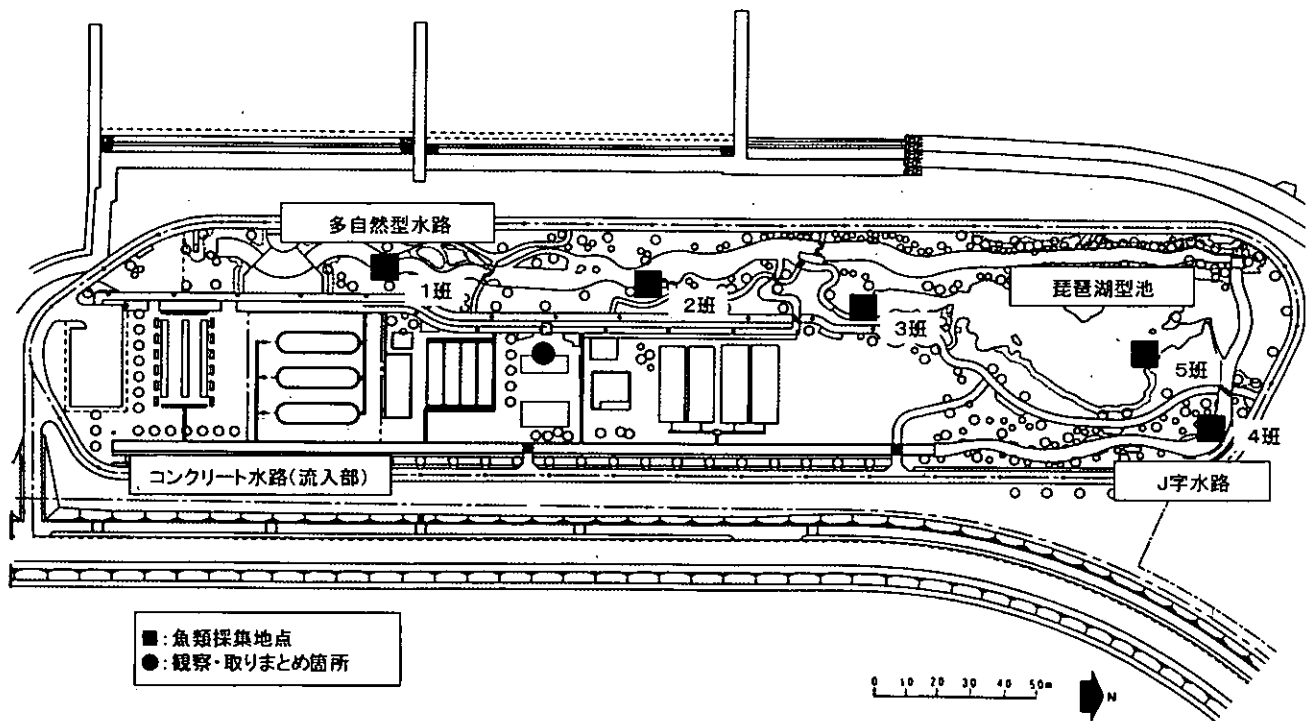


図4-1 実施地点

(2) 魚類の採集結果

魚類採集の結果、カネヒラ、タイリクバラタナゴ、メダカ、ブルーギル等 4 科 15 種の魚類を観察することができた。実施地点別の採集状況については、多自然型水路、J 字水路 (1~4 班が採集) では、タイリクバラタナゴ、カネヒラや、オイカワ、メダカ等が多く観察された。琵琶湖型実験池 (6 班が採集) では、ブルーギルが多く観察された。

観察された魚類等は表 4-1、図 4-2 に示すとおりである。

表 4-1 観察された魚類等

項目	観察された種
魚類	(コイ科) コイ、ゲンゴロウブナ、カネヒラ、タイリクバラタナゴ、オイカワ、ヌマムツ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ツチフキ、スゴモロコ (メダカ科) メダカ (サンフィッシュ科) ブルーギル、オオクチバス (ハゼ科) ヨシノボリ類 4 科 15 種
その他生物	ウシガエル(幼生)、アメリカザリガニ、スジエビ、ヒメタニシ、チリメンカワニナ、モノアラガイ、タテボシガイ、イトトンボ科(幼生)

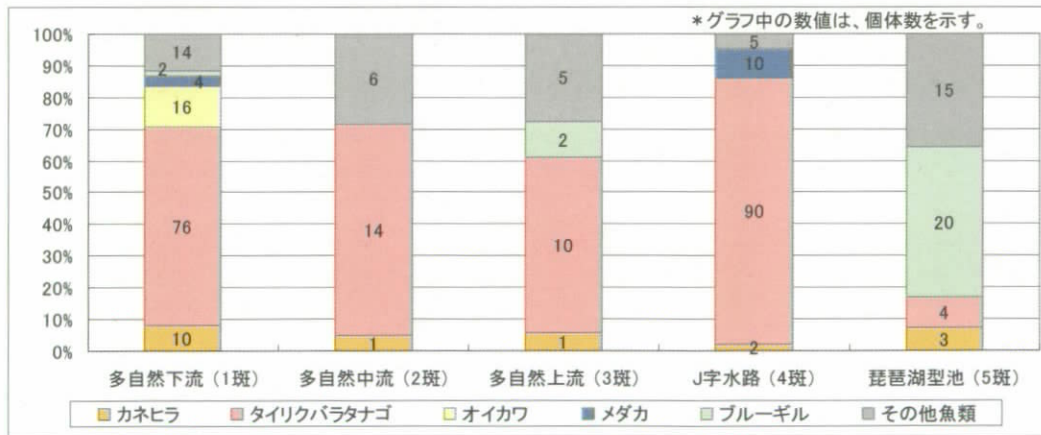


図 4-2 実施地点別の採集状況

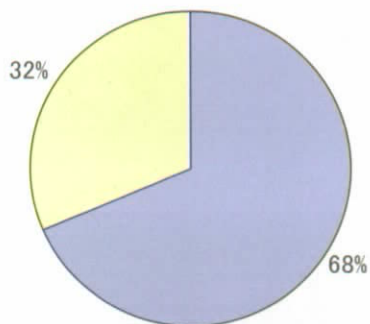
総数 : 15 種・310 匹

(3) アンケート調査結果

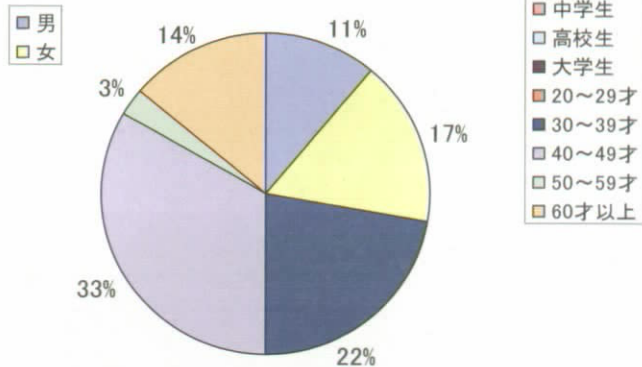
アンケート調査結果は図 4-3 に示すとおりである。参加者 67 名のうち 48 名のアンケートを回収し、回収率は約 7 割であった。アンケートの結果は、以下にまとめた。

- 年齢層は、6 歳以下から 60 歳以上まで広い年齢層の参加が得られたが、中学生～大学生含む 10 代から 20 代の年齢層の参加はみられなかった。
- 参加者は滋賀県在住が 82% を占め、他京都府、大阪府、福井県からの参加があった。
- 広報については、チラシ・ポスターで知った人が 65% で、その内訳は滋賀県、Biyo センター、学校等であった。次いでホームページで知った人が 21% で、その内訳は滋賀県、BY スタンプラリー等であった。
- 今後も Biyo センターの自然観察会に参加したいと答えた人は 92% で過半数を超え、参加したいと答えた人の中では、観察の内容として水生生物を希望した人が 41% と最も多く、次いで植物 25%、陸生生物 18%、水質 16% であった。
- 参加した動機は、「子供に経験・体験させたい」が 14 人と多く、次いで「琵琶湖の生態系・魚に関心があった」、「自然に触れたい」等であった。
- 意見・感想として、「家庭では出来ない体験ができた」、「自然とふれあえてよかった」、「身近にこんな良い企画をされているのもっと参加できればと思った」、「スタッフの支援等で大変良い観察会だった」等があげられた。また、改善点として、「川にヘドロがかなり堆積していて歩きづらかった」、「水が思ったより臭くはいるのも気持ち悪かった」、「観察する時間をもっととってほしい」等であった。

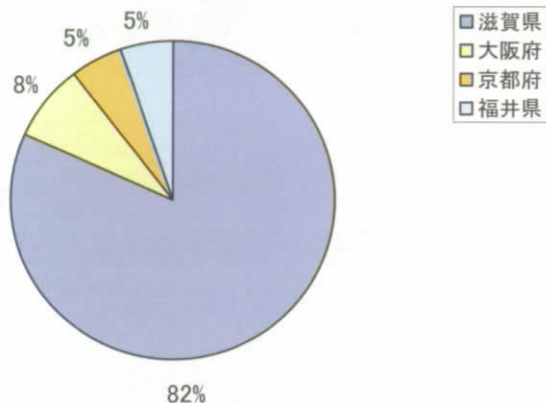
① 性別



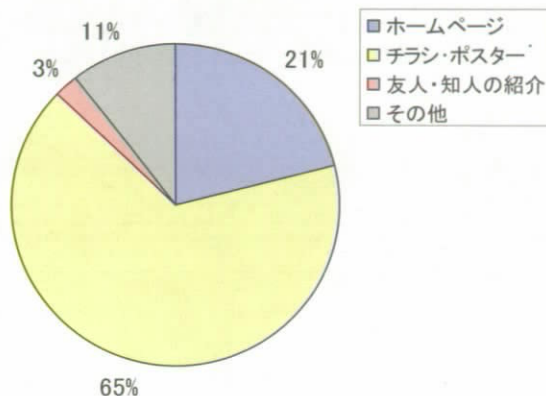
② 年齢



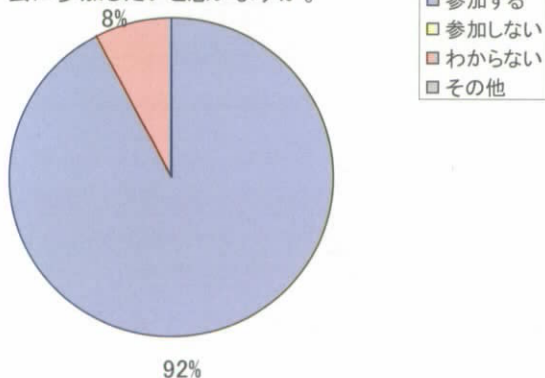
③ 住所



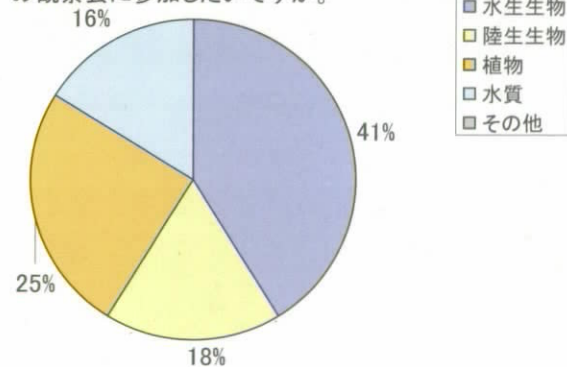
④ 自然観察会を何で知りましたか。



⑤ 今後も実験センターの自然観察会に参加したいと思いますか。



⑥ 「参加したい」と答えた方はどんな内容の観察会に参加したいですか。



⑦ 自然観察会に参加した動機

内容	人数
子供に経験・体験させたい。	14
琵琶湖の生態系・魚に関心があった。	10
自由研究など。	2
観察会が好きだから、おもしろそうだから。	2
自然に触れたい。	3
その他	2

⑧ 意見・感想

主な内容
●家庭ではできない体験ができた。●魚のことについてわかった。●詳しく観察する時間をもっとしてほしい。●自然と触れ合えてよかった。●原始的な方法でも魚がとれて驚いた。●魚は草むらに隠れているんだと思った。●身近にこんな良い企画をされているのもっと参加できればと思った。●川にヘドロがかなり堆積していて、川の中が歩きづらかった。●体を洗えるようにしてください。●水が思ったより臭く、はいるのも実は気持ち悪かった。●準備、スタッフの人たちの支援等で大変良い観察会だった。

図 4-3 魚類採集 アンケート結果

4. 2 昆虫の観察

(1) 実施地点

実施地点は図 4-4 に示すとおりである。

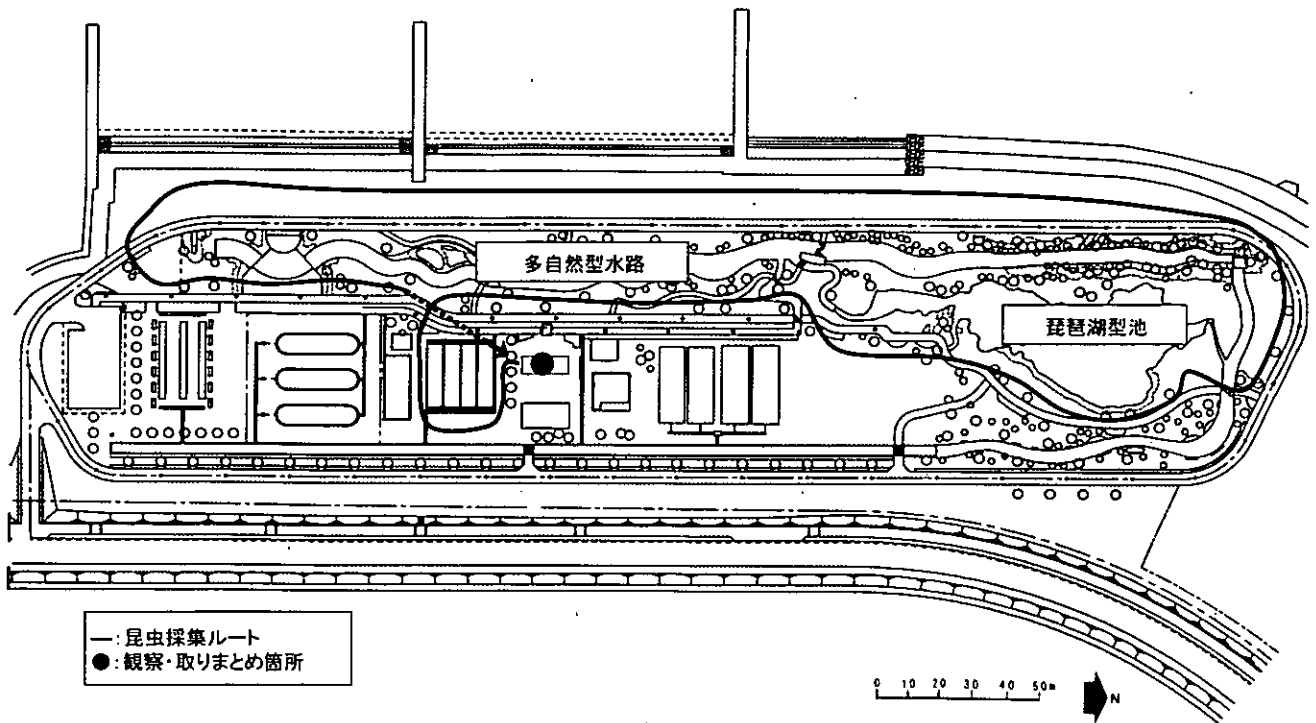


図 4-4 実施地点

(2) 昆虫類の採集結果

観察された昆虫等は、表 4-2 に示すとおりである。モンシロチョウ、モンキチョウ、キチョウ、キアゲハ、コムラサキ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、アオモンイトトンボ、ショウリョウバッタ、クルマバッタモドキ、エンマコウロギ等、26種が確認された。

表 4-2 観察された昆虫等

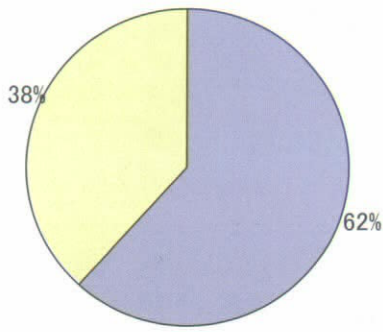
項目	観察された種
昆虫	ツユムシ(幼虫)、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、クルマバッタモドキ、イナゴ、イボバッタ、エンマコオロギ、ウスイロササキリ、クサキリ モンシロチョウ、モンキチョウ、キチョウ、コムラサキ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、キアゲハ、ヒメアカタテハ、セリチョウ シオカラトンボ、アオモンイトトンボ、セスジイトトンボ、ギンヤンマ、ウスバキトンボ ナナホシテントウ、ムシヒキアブ、ツクツクボウシ

(3) アンケートより

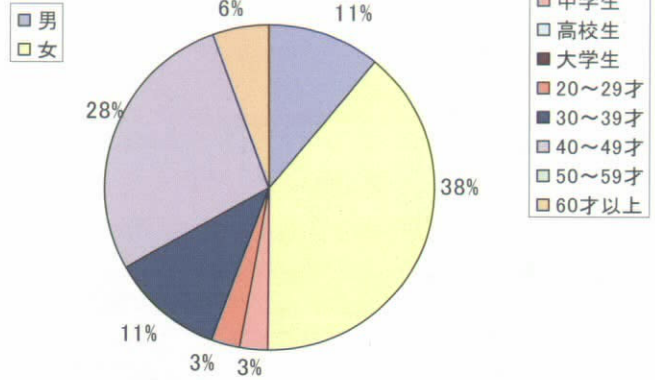
アンケート調査結果は図 3-3、表 3-5 に示すとおりである。45 名の参加者のうち 36 名のアンケートを回収し、回収率は 8 割であった。アンケートの結果は、以下にまとめた。

- 年齢層は、6 歳以下から 60 歳以上まで広い年齢層の参加が得られたが、高校生、大学生の参加はみられなかった。全体として、小学生以下の子供を含めた家族での参加が多かった。
- 参加者は滋賀県在住が 81% と最も多く、次いで奈良県が 13%、京都府、和歌山県が 3% であった。
- 広報については、チラシ・ポスターで知った人が 37% と最も多く、次いで友人・知人の紹介が 21%、ホームページ、ラジオ番組がそれぞれ 12%、その他が 18% であった。その他 18% の内訳は、BYQ の案内によるものであった。また、チラシ・ポスター、ホームページを見た場所は、Biyo センターからの郵送や滋賀県であった。その他として、新聞による掲載もあげられた。
- 今後も Biyo センターの自然観察会に参加したいと答えた人は 70% で過半数を超え、参加したいと答えた人の中では、観察の内容として水生生物を希望した人が 37% と最も多く、次いで植物 20%、水質、陸生生物がそれぞれ 18% であった。
- 参加した動機は、子供に体験させたい、虫が好き・楽しそう等がそれぞれ 7 人と多く、自然とのふれあいや、琵琶湖周辺の昆虫や、昆虫の生態を知りたい、Biyo センターのことを知りたい等があげられた。
- 意見・感想として、昆虫の種類や名前を知った、虫嫌いだった子供が興味をもった、童心にかえり楽しかったといった感想の他、湖岸のゴミ拾いをしたい、日頃も観察・学習ができるよう解放してほしい、説明のある展示を充実してほしい等の要望があった。

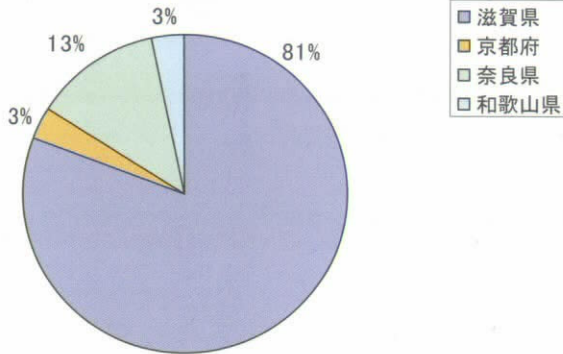
① 性別



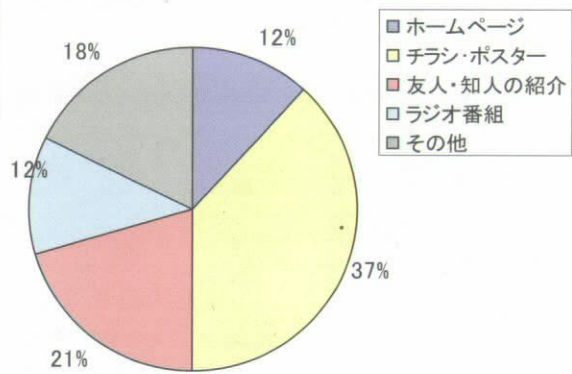
② 年齢



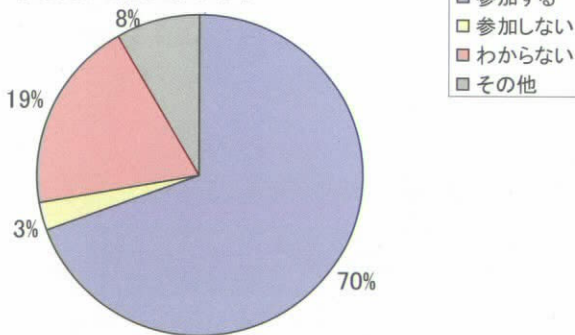
③ 住所



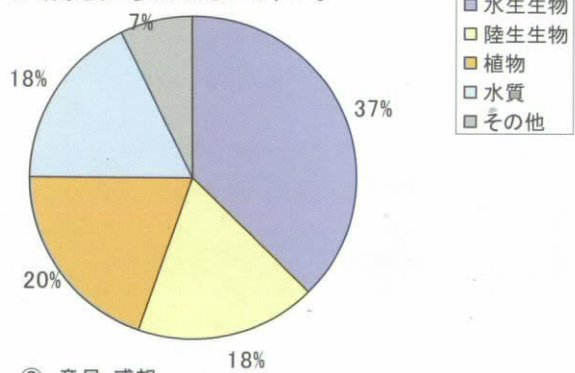
④ 自然観察会を何で知りましたか。



⑤ 今後も実験センターの自然観察会に参加したいと思いますか。



⑥ 「参加したい」と答えた方は、どんな内容の観察会に参加したいですか。



⑦ 自然観察会に参加した動機

内容	人数
昆虫の生態を知る。	3
自然とのふれあい。	4
子供に体験させたい。	7
虫が好きだから、楽しそう。	7
琵琶湖周辺の昆虫を知りたくて。	2
Biyoを知りたくて。	2
その他	2

⑧ 意見・感想

主な内容
●童心にかえり楽しかった。●昆虫の種類や名前を知ることができた。●湖岸のゴミ取りをしたい。●日頃観察と学習の出来るよう開放(申込制)して自由に入出入り出来るよう、又説明のある展示も充実してほしい。●子供が虫嫌いだったのにつかまえて興味がある姿をみれてよかった。●スタッフがいろいろ教えてくれ気持ちの良い対応をしてくれた。

図 4-5 昆虫類採集 アンケート結果

5. まとめ

第1回（魚類観察）は琵琶湖博物館の主任学芸員である中井主任学芸員に、第2回（昆虫観察）は八幡高校の南先生に講師としてご協力頂き、地域の有識者による地域の自然を対象とした特色ある自然観察会を実施することができた。

夏休み中に開催したということもあり、「子どもに体験させたい」という理由で参加した保護者の方が多く、学校教育において平成14年度より『総合的な学習の時間』が設置されたことにより、本観察会のような環境学習の場の必要性が高まっていることが伺えた。

今後も、Biyoセンターではこのような啓発活動を継続し、教育関係者や地域の方々と連携をもちながら琵琶湖の環境保全に関心のある人々の活動の拠点となり、住民参加による調査や子供たちへの環境教育が持続的に行えるような環境づくりや情報発信をおこなっていくこととする。

【実施状況（魚の観察）】



開会 * スタッフの紹介、班分け等



採集方法 * 投網の投げ方を実演。

みんなで追い込み、投網で採集



タモ網で採集

魚類採集



魚類観察 * 調査用紙に沿って採集した魚類を調査



班毎に採集結果を発表



講評 * 採集結果について(中井先生より)

Biyoセンター『自然観察会』参加募集

Biyoセンターの水路や池で魚や昆虫を採集して観察しませんか？

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(Biyoセンター)には、生き物がすめる「ビオトープ」として整備した多自然型水路や琵琶湖型池があります。また、Biyoセンターは琵琶湖にも面しているという立地条件もあり、移ろいゆく四季の中で多くの動植物を目にすることができます。

第1回 平成17年7月23日(土) 魚の観察

第2回 平成17年8月20日(土) 昆虫の観察

時間: 9:30~12:00(受付9:00から) (第1回、2回共通)

場所: 琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(Biyoセンター)

住所: 滋賀県草津市志那町地先

内容: Biyoセンターの水路、池に生息する魚(第1回観察会)や昆虫(第2回観察会)をみんなで採集して観察します。

募集人数: 各先着50名(第1回、2回共通) (小学生以下は保護者同伴)

参加費: **無料**



■持ち物・服装

水の中に入りますのでぬれてもよい服装・靴(長靴、サンダル)、帽子、タオル、天候によりカッパ等の雨具、水筒

主催:(財)琵琶湖・淀川水質保全機構、国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、水資源機構関西支社
協力:滋賀県立琵琶湖博物館、草津市



平成 17 年度技術研究発表会

1. 目的

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構は、琵琶湖・淀川水系の水環境改善のために、自然の浄化機能を活かした水質改善など、新たな水処理技術の研究・開発の場として、また水環境に係わる情報の収集・発信等を行う場として、1997年、琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(以下：Biyoセンター)を葉山川河口部に接した琵琶湖岸部に開設し、水質浄化に役立つ様々な技術の研究を行ってきた。

住民、企業、研究機関、行政等の様々な主体が連携し、水環境改善に取り組むことが益々重要になってきた今日、Biyoセンターを中心に琵琶湖・淀川水質浄化研究所で取り組んできた研究成果や琵琶湖・淀川水系の水環境問題を多くの皆様に知っていただくために技術研究発表会を開催した。

2. 実施内容

(1) 主催

国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、独立行政法人水資源機構関西支社、
財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構

(2) 日時

【Biyoセンター見学会】 平成17年11月8日(火) 09:45~11:40

【技術研究発表会】 平成17年11月9日(水) 10:00~16:50

(3) 実施場所

【Biyoセンター見学会】 琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター (Biyoセンター)
(草津市志那町地先)

【技術研究発表会】 ピアザ淡海 ピアザホール
(大津市におの浜1丁目1番20号)

(4) プログラム

■Biyo センター見学会

09:45	J R 草津駅西口集合
10:00	J R 草津駅西口出発
10:20~11:20	Biyo センター見学会
11:40	J R 草津駅西口解散

■技術研究発表プログラム

10:00	受付開始
10:30	開 会
	開会挨拶/足立敏之 (国土交通省近畿地方整備局企画部長)
	発表会の開催にあたって/芦田和男 ((財)琵琶湖・淀川水質保全機構 琵琶湖・淀川水質浄化研究所所長)
10:40~11:20	研究発表1 琵琶湖・淀川流域の水環境保全に向けて ①家棟川ビオトープ整備事業計画検討 ((財) 琵琶湖・淀川水質保全機構) ②BYQネットワークの推進 ((財) 琵琶湖・淀川水質保全機構)
11:25~12:00	特別発表/萱場祐一 (独立行政法人 土木研究所自然共生研究センター センター長) 「実験河川を用いた研究の現状と今後」
	昼食休憩
13:00~14:00	基調講演/松井正文 (京都大学大学院人間・環境学研究科教授) 「両生類が語る琵琶湖・淀川流域の生物生息環境の現状」
14:15~16:45	研究発表2 水質浄化技術の研究 ③大型底生動物 (貝類) 移動能力把握実験 (国土交通省近畿地方整備局) ④路面排水処理施設の検討実験 (滋賀県) ⑤湖流創出による水環境改善実験 (滋賀県) —小休憩— ⑥消波施設撤去がヨシ帯に及ぼす影響調査 (独立行政法人水資源機構) ⑦曝気循環付浮島方式による水環境改善実験 (東亜建設工業㈱) ⑧実験センターにおける生物調査 ((財) 琵琶湖・淀川水質保全機構) ⑨土壌浄化施設モニタリング調査 ((財) 琵琶湖・淀川水質保全機構)
16:50	閉会

(5) 当日の配布物

【Biyo センター見学会】

- Biyo センター パンフレット (平成17年度版)

【技術研究発表会】

- 琵琶湖・淀川水質浄化研究所技術研究発表会 講演集
- Biyo センター パンフレット (平成17年度版)
- Biyo センター 実験募集要項
- アンケート・質問用紙

2. 実施結果

(1) 参加状況

技術研究発表会および Biyo センター見学会の参加者は以下のとおり。

	民間 企業	官公庁	大学・ 研究機関	財団等 団体	市民団体	一般個人	合計
Biyo センター 見学会	6	3	0	0	5	0	16
技術研究 発表会	96	58	5	3	7	5	174

単位：人

■ 事前申し込みに対する参加率

○ Biyo センター見学会：100%

○ 技術研究発表会：80%（参加者150名/事前申し込み189名）

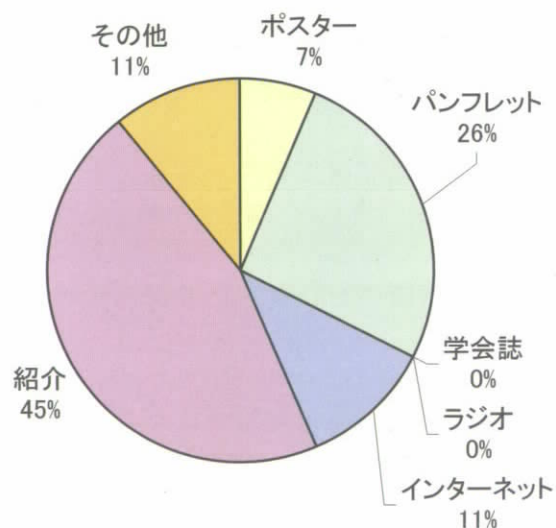
(2) アンケート・質問集計結果

技術研究発表会の参加者に対し今後の参考のためにアンケート用紙を配布し、参加者の意見、要望、質問を伺った。アンケートの記入者は43名であり、参加者の約25%から回答を得た。アンケートの内容と主な回答結果を以下に示す。

1) 技術研究発表会のことを何で知りましたか。 (複数回答含め、回答数46)

最も多いのは、紹介（45%）であり、次いでパンフレット、インターネット、ポスターであった。

今後、さらに多方面の参加を呼び込むためには、広報手法を検討する必要がある。



2) どの発表に興味を持たれましたか。また、それはどのような点についてですか。(意見抜粋、回答数40)

【両生類が語る琵琶湖・淀川流域の生物生息環境（基調講演）】

○ オオサンショウウオに関し、いまだ未解明な部分が多い事を知る。それらに関しどのように解明するかを考える事は実に興味深いです。

【実験河川を用いた研究の現状と今後（特別発表）】

○ 家棟川ビオトープなどとリンクしたスケールアップした実験施設を「西の湖」に設置して欲しい。琵琶湖に生物多様性を取り戻すための実験場として有効だと思う。
○ 実験の目的・設定が明確でわかりやすかった。

【家棟川ビオトープでの取り組みについて】

○目的の中に人と自然との関わりを入れられており、ワークショップを活発に開催されていること。

【BYQネットワークの推進】

○財団の役割として情報提供支援活動が、今後大きなテーマとなると思います。これは水環境管理の主役は住民であり、住民の方の自助共助なしで実施できないため。

【大型底生動物（貝類）移動能力把握実験】

○これまであまり定量的評価がなかったので。また琵琶湖水位低下の問題解決のための基礎的資料として、非常に有効、有意義なものであると考えるため。

【路面排水処理装置の検討実験】

○今後、水質改善には面源負荷削減対策の重要性がますます高まると考えるため。

【湖流創出による水環境改善実験】

○あれだけ効果的な湧昇でも1年どころでは処理しきれない大量のヘドロ？がたまっているのだなと感じた。

【消波施設撤去がヨシ帯に及ぼす影響調査】

○本当に撤去しても大丈夫なのか？（先日ボランティアで消波柵をつくりましたが）。

【曝気循環付浮島方式による水環境改善実験】

○流れによって植物プランクトン etc の抑制が行われるという点。

【実験センターにおける生物調査】

○多自然型河川の状況と環境条件。

【土壌浄化施設モニタリング調査】

○水質浄化に関するもの。

3) 技術研究発表会について、ご意見、ご要望等ございましたら、ご自由にお書きください。（意見抜粋、回答数 18）

【改善意見】

○発表時間は適当であるが、質疑の時間が少ないと思う。

○配布された資料は発表されたスライド（パワーポイント）のデータが付いて無いので、今後は白黒のコピーでも良いので付けて欲しい。

○研究発表部門の区切りがおかしい。研究発表1と2、特に2に分類されるものがおかしい。生態系に関連した研究をすすめて欲しい。

○一部のテーマについては、ポスターセッション形式もあってよいと思います。

○アカデミックな内容でなくて一般市民に共通する内容。

【その他】

- 研究、情報収集の場にとって、最適であり今後も活用していきたい。
- 単に琵琶湖・淀川水質浄化研究所の発表にとどまらず、琵琶湖を守ろうとする多くの部門の参加で大変良い場であると思います。

4) 今後、このような発表会はあれば参加しますか(回答数 43)

今回の参加者（アンケート回答者）のうち、86%の人に次回も参加する意向を頂くことができた。

5) 琵琶湖・淀川水系の水質や水環境にとって何が課題とお考えですか。皆様のご意見をお聞かせください。(意見抜粋、回答数 30)

【水質・水量に関する意見】

- 琵琶湖へ流入する水の水質改善や、設備投資が必要であると思います。長期的な観測・実験による評価が必要。
- 面源負荷削減対策、微量有害物質（環境ホルモン・ダイオキシン等）の影響解明。
- 農業関係の排水、地下浸透水の浄化。
- 自動車等の車輛による初期降雨の汚染水をうまく処理するシステムを作る。
- 下水道等の整備によって水質はかなり改善されてきたと思います。これからの課題は低濃度の水を大量に処理できる低コストの技術が必要であると考えております。

【生物に関する意見】

- 外来生物の対策（ギル、バス、ジャンボタニシ等）、固有種の保存等。
- メカニカルなアプローチばかりでなくバイオ的（微生物等）なものを使用した浄化システムも必要ではないかと思う。
- 水田、ヨシ原、川（の構造）、森林を環境保全すること、生態系の維持と生物多様性の回復の具体的な方法、上記の為の川底、内湖底の最適な土質の研究（特に砂による覆土の効果）。

【連携に関する意見】

- 森から海まで流域一体となった対策と連携。
- 地元住民やNPO等との連携・協働。
- 住民の方々の認識。
- とても難しい問題があると思います。国や各自治体、NPO等の市民団体による活動は十分成果を出しています。これらの活動以外の一般住民をどのように水質や水環境について考える、保全していく方向に誘導するかが課題であると考えます。

【その他】

○根本的には「人がいること」だという気がするが、これはどうしようもない面があるので他の方向を考えなければならない。個人がやれることと行政・企業がすべきことを明確にし、全体として有機的に機能するようなシステムづくりができないかと思う。まずは琵琶湖・淀川水系の水環境改善プロセス・メカニズムの解明が必要だが。

- ○流域管理を実現するための基本データを共有化できるための仕組みづくり。
- 研究成果の集約・効率的な実用化。

3. 広報活動・取材等

(1) 広報活動

- ポスター：500部
- チラシ：3000部 *ポスター400部、チラシ2000部は各関係機関へ郵送
- BYQ ホームページ掲載
- 学会誌開催案内掲載
 - ・水環境学会誌 Vol.28 9月号・10月号掲載
 - ・環境技術 Vol.34 9月号掲載
- 滋賀県県政e新聞掲載 2005.10.6(木)
- 記事投げ込み 2005.10.26(水) 14:00
 - ・日刊建設工業新聞掲載 2004.11.4(金) 掲載

(2) 取材等

技術研究発表会当日会場において、下記の報道機関5社からの取材があり、びわこ放送および京都新聞において記事として取り上げられた。

- NHK天津放送局
- びわこ放送 2004.11.9(水)週間ニュース Web掲載
- 読売新聞天津支局
- 京都新聞滋賀本社 2004.11.10(木)朝刊 掲載
- 中日新聞天津支局

4. まとめ

アンケートの結果から、琵琶湖・淀川水系にとって、水質の保全、向上が重要であるという意見とともに、外来種や生態系といった生物的なテーマ、また地域住民との連携といったテーマについても多くの意見が寄せられた。

これらのことから、今後、琵琶湖・淀川水質浄化研究所として、水質浄化を軸としながらも、生物的なテーマや地域住民との連携についても積極的に取り組んでいくことが良いと考えられる。

■技術研究発表会 ポスター・チラシ



(財)琵琶湖・淀川水質保全機構
琵琶湖・淀川水質浄化研究所
技術研究発表会

開催日 **11/9(水)** ●受付:午前10時から ●開会:午前10時30分 ●会場 **ピアザ淡海** ●大津市におの浜一丁目1番20号

参加費 無料

基調講演

「両生類が語る琵琶湖・淀川流域の生物生息環境の現状」

松井正文 (京都大学大学院人理・環境学研究科教授)

プログラム

特別発表 「実績河川を用いた研究の現状と今後」 萱場祐一
(独立行政法人 土木研究所自然共生研究センターセンター長)

研究発表 琵琶湖・淀川流域の水環境保全に向けて

- 「家様川ピオトープでの取り組みについて」
- 「BYQネットワークの推進」

研究発表 Blyoセンターにおける水質浄化技術の研究

- 「大型底生動物(貝類)移動能力把握実験」
- 「路面排水処理施設の新規実験」
- 「湖泥削出による水環境改善実験」
- 「消波施設撤去がヨシ帯に及ぼす影響調査」
- 「専気循環付浮島方式による水環境改善実験」
- 「実験センターにおける生物調査」
- 「土壌浄化施設モニタリング調査」

交通アクセス

- JR大津駅から京阪・近江/バスなげさ公園線8分 ピアザ淡海下車
- JR膳所駅から徒歩12分



11/8 実験センター見学会

9:45 / JR草津駅西口集合
10:00 / JR草津駅西口出発
10:20~11:20 / Blyoセンター見学
11:40 / JR草津駅西口にて解散

問い合わせ先

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
TEL:06-6202-1267 FAX:06-6202-1317
URL:http://www.byq.or.jp e-mail:biyo_biyo@byq.or.jp

主催 ●国土交通省近畿地方整備局 ●滋賀県 ●(独)水資源機構関西支社 ●(財)琵琶湖・淀川水質保全機構

■新聞等による報道

日刊工業新聞
2004,11,4

9日に琵琶湖・淀川水質浄化研究所 技術研究発表会

近畿地方整備局、滋賀県、水資源機構関西支社、琵琶湖・淀川水質保全機構は9日、大津市のヒアザ淡海で淀川水系の水環境に関する新しい情報と水質浄化手法をテーマとした「琵琶湖・淀川水質浄化研究所技術研究発表会」を開催する。

近畿整備局ら

か、琵琶湖、淀川水系の水環境改善に役立てようと、Bioセンターを中心に琵琶湖・淀川水質浄化研究所で取り組んできた研究成果や同水系の水環境問題を知らせてもらうために企画した。「両生類が語る琵琶湖・淀川流域の生物生息環境の現状」を演題に松井正文京都大学大学院人間・環境学研究科教授が基調講演するほか、「実験河川を用いた

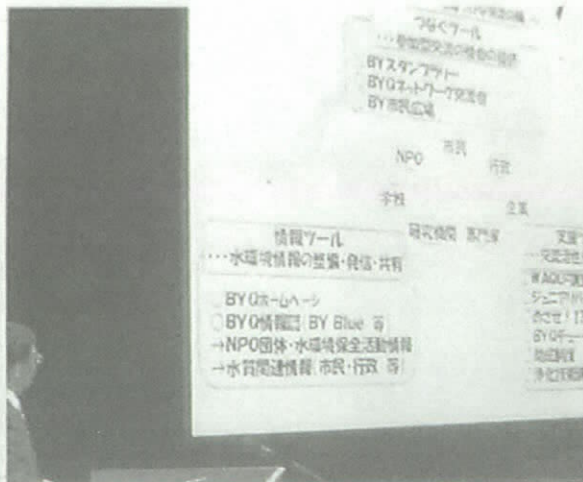
研究の現状と今後」を会場、祐一土木研究所自然共生研究センター長が特別発表する。

また、研究発表として「琵琶湖・淀川流域の水環境に向けて」を2課題、「Bioセンターにおける水質浄化技術の研究」を7課題発表する。

時間は午前10時から午後4時50分まで。入場無料。当日の受け付け可能。

琵琶湖・淀川水質保全機構のビオトープ

琵琶湖の水質浄化に関する研究成果が披露された発表会
(大津市・ヒアザ淡海)



水質浄化に有効

京都新聞
2004,11,10 朝刊

3年間の流出水など分析

国交省琵琶湖河川事務所が内湖の復元を目指して、野洲市野田の家棟川河口部に農業排水を引いて整備したビオトープでは、排水が流入する時と琵琶湖に流出する時の水質を三年間調べ、比較した。その結果、排水がビオトープに滞留する間に、湖の富栄養化につながるリンや窒素が底に沈殿し、湖の水質浄化に効果があることを確認した。一方で、浮遊物質の沈殿率は次第に低下し、浄化の効果は年ごとに薄れることも判明した。

また、施設内では、昆虫や魚が徐々に増えており、内湖の復元に向けてデータの収集が進んでいることも報告された。

データ

葉山川の水質・底質および農業排水路の水質データ

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターでは実験原水として、主に葉山川河川水を使用している。

葉山川の水質調査結果を図 1 に示す。葉山川は琵琶湖南湖東岸の各流入河川の水質と比較すると平均的な水質である。

また、表 1 に葉山川の底質調査結果を示す。

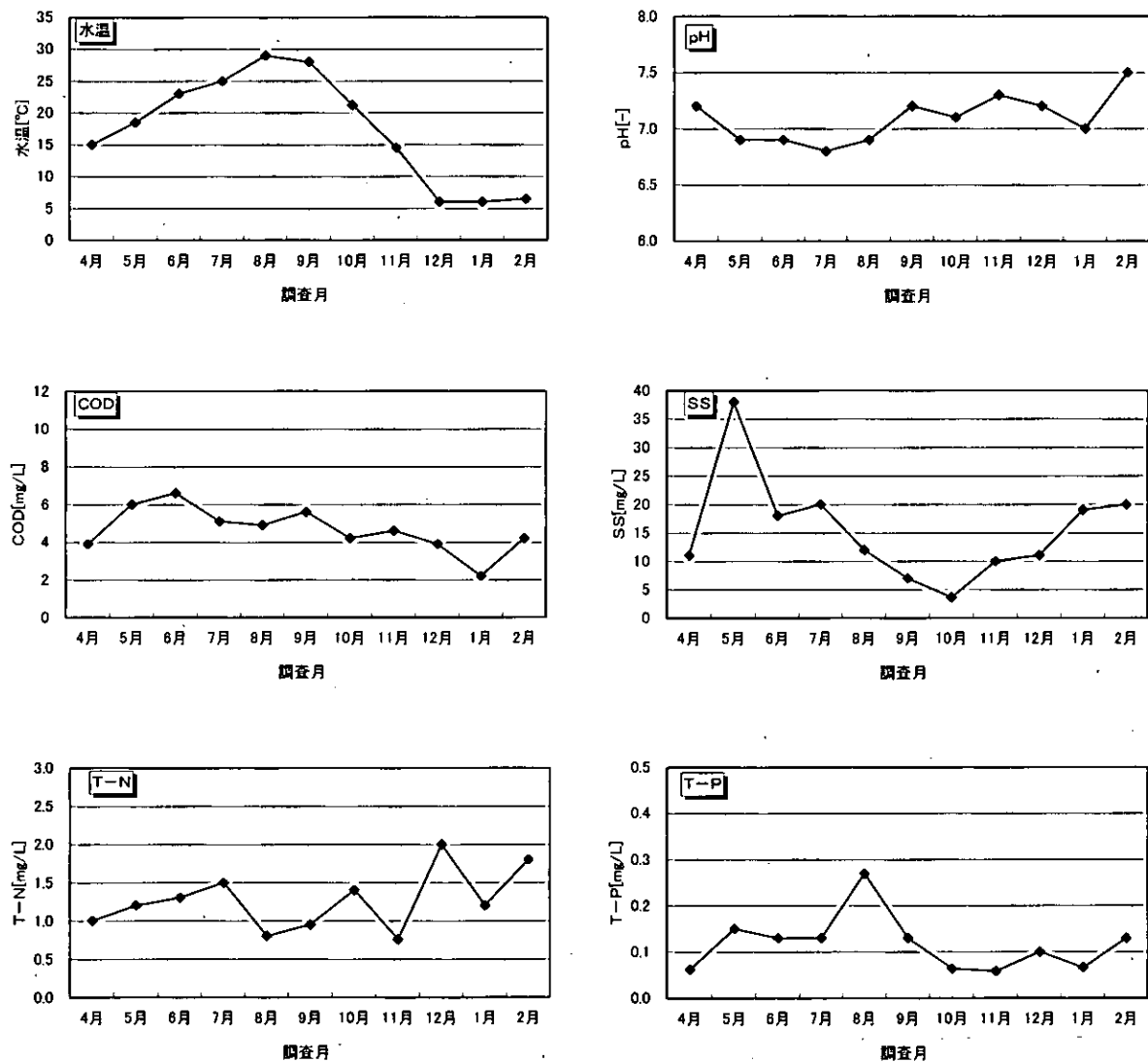


図 1 葉山川水質調査結果 (平成 17 年度)
表 1 葉山川の底質調査結果 (平成 17 年度)

採取日	気温 (°C)	泥温 (°C)	T-N (mg/g)	T-P (mg/g)	T-C (mg/g)	強熱減量 (%)	備考
08月22日	29.2	27.1	4.1	2.1	51	13.3	
02月23日	8.5	8.9	8.8	3.8	132.0	27.2	

また、必要に応じて実験原水として使用している農業排水路の水質調査結果を図 2 に示す。農業排水路の水は主に田植えの時期に流出する代掻き水の浄化効果を検証する実験などに使用している。

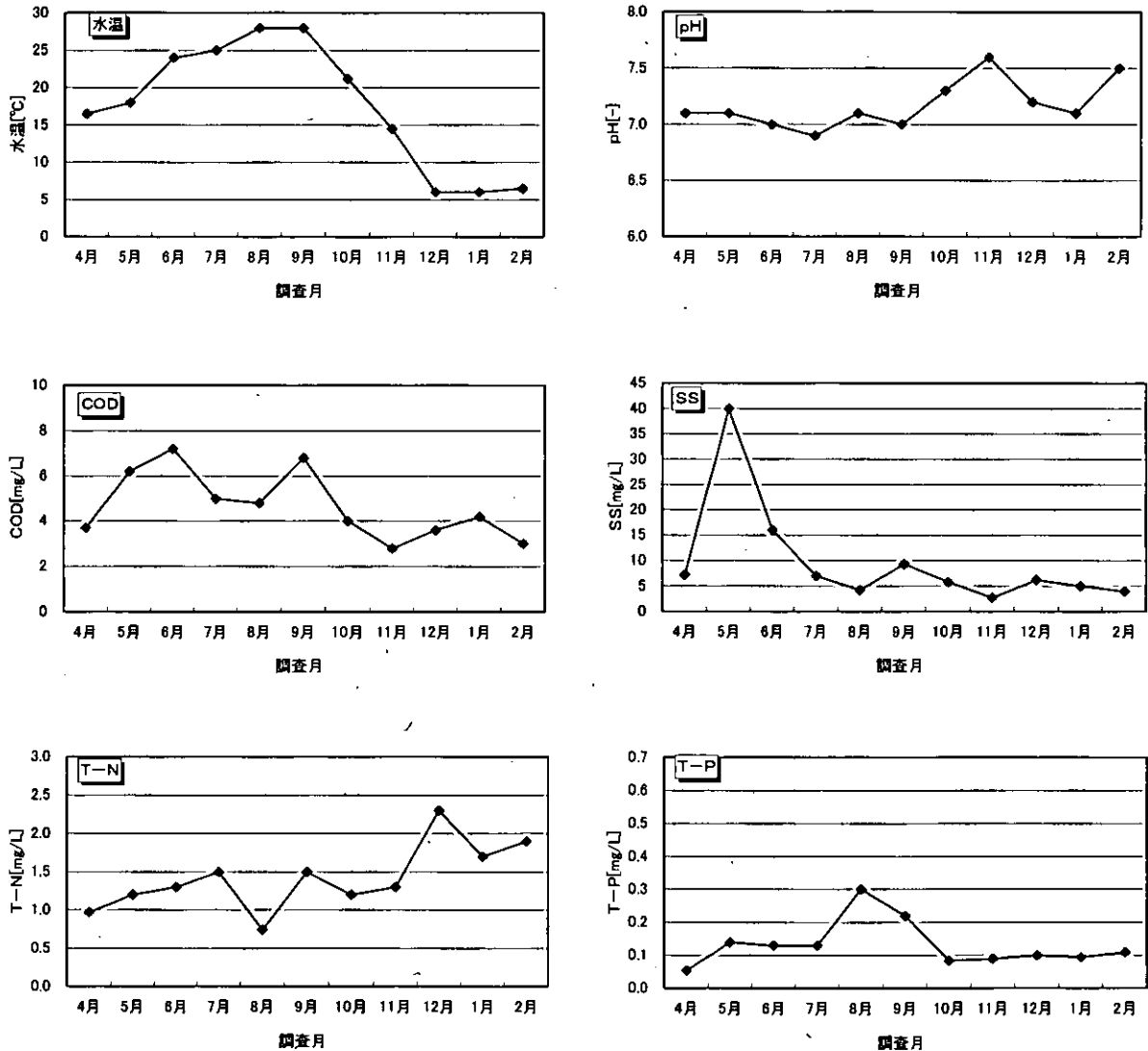


図 2 農業排水路の水質調査結果 (平成 17 年度)

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター年報 第8号
—平成17年度—

発行 2006年12月
国土交通省近畿地方整備局
滋賀県
水資源機構関西支社
財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構

実験センター 〒525-0005 滋賀県草津市志那町地先
TEL 077(568)2032
FAX 077(568)2052

問い合わせ先 財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
〒541-0041 大阪市中央区北浜1丁目1番30号
TEL 06(6202)1267
FAX 06(6202)1317
E-mail hozenkiko@byq.or.jp